

# ちよつといひ話

## ～ 家康公 ～

戦国の武将家康公は、先の法然上人と同様8歳の時に、父広忠を亡くしております。家康は、幼少竹千代時代、その当時多々行われていた人質として、不遇の時を過ごしました。家康は、今川義元の人質として静岡にいました。御年16歳の時、義元の重臣ちかなが関口親永の娘（築山殿）と結婚をします。私は、このことが後に家康の浄土思想（お念仏）を生む根底になったと思えるのです。家康と築山殿との間に嫡男信康が生まれます。そして、信康8歳の時、信長の長女徳姫と結婚をします。時を重ね、信康22歳の時、戦国の駆け引きから夫婦不和及び姑との不仲を理由に信長より家康は2人の処罰を通告されてしまうのです。家康は諸処の模索をすれども、岡崎を守る道は無く、やむなく断腸の思いで信長の命に従い、家来に築山殿を殺害させると共に信康を切腹させたのです。戦国の世とはいえ、家康は生涯忘れさることの無いできごとでした。この思いが家康公の浄土思想を深める事になり、おんりえど ごんぐじょうど厭離穢土、欣求浄土の旗印となるのです。家康公は、慶長5年(1600)関ヶ原の合戦にて勝利を治め、天下統一の夢を叶えました。家康公のこうした強運は、3歳の時に別れた母親（お大かたの方）が信仰に厚く、家康公の懐妊から誕生に至るまで鳳来寺のお薬師様に願を掛けられたことによるのではないのでしょうか。家康公が一生仏様に守られていたことは、神社仏閣を大切にされたことにもよると思います。死後、朝廷からとうしょうたいごんげん東照大権現の名称を与えられて以来、万民に権現様として親しみを持ってあが崇められているのです。私たちも死して神、仏としてまつ祀られる様に精進しましょう。

善入院油掛地藏尊